

翻訳とかに関心ないすか？

その翻訳もボランティアの仕業です

オープンソースソフトウェアのコードは、インターネット上のボランティアにより書かれたものが多くあります。ドキュメントも、ボランティアが執筆したものが多くあります。

また、日本で使われているオープンソースソフトウェアには、世界各地域の開発者により開発されているものもありますが、ユーザーインターフェースやマニュアル類が日本語に訳されているものも多くあります。このような翻訳も、ボランティアがおこなったりします。

あなたが使っているオープンソースソフトウェアにも、ボランティアが翻訳したものがあるかもしれません。。

あなたの参加を待ってます

残念ながら、多くの翻訳プロジェクトで、人手が足りない状況が続いています。

オープンソースカンファレンスの出展団体には、ソフトウェアの開発や普及に取り組んでいる団体が多数ありますが、あわせて翻訳に取り組んでいる団体もあります。

関心をお持ちのソフトウェアがあり、「このドキュメントの翻訳がないんだけど」とか、「何この翻訳、俺ならもっとうまく訳すぜ」といった感想をお持ちになったことがあれば、ぜひプロジェクトへの参加をご検討ください。

Doc-ja Archive Project

ブース担当: 岩井、岡野

ブースにたむろってたり懇親会に出没したりします。

お気軽に声をおかけください。

Doc-ja Archive Project のご紹介

(<http://openlab.ring.gr.jp/doc-ja/> より抜粋)

Doc-ja プロジェクトとは

Doc-ja Archive Project は、ソフトウェアのマニュアルなどの技術文書を日本語に翻訳する作業を行なっている人々に対して、情報交換の場を提供することを目的としたプロジェクトです。

現在、オープンソースソフトウェアの開発プロジェクトで行なわれている各翻訳プロジェクトに代表されるように、大小さまざまな翻訳プロジェクトが存在します。こういった翻訳プロジェクトにおいては、ボランティアによる作業が中心となるため、成果物の管理や用語の統一問題など、翻訳作業そのものよりも文書管理の負担が大きく、規模が大きくなればなるほど、維持することが大変になります。

さまざまな工夫により、その管理の効率を向上させたり、翻訳作業を簡単にできるようにしているプロジェクトもあるのですが、ソースによって技術が流通するソフトウェア開発と異なり、翻訳作業の場合、あるプロジェクトにおけるノウハウを、他のプロジェクトと共有する機会があまりありません。そのため、いわゆる「車輪の再発明」が頻繁に行なわれている現状があります。

このプロジェクトは、翻訳に興味のある個人、個々の翻訳プロジェクトで活動されている方々などの間で、特定の翻訳プロジェクトに属さない立場での交流の場を提供するものです。また、「個人的に技術文書を翻訳した／ているけど、公開場所や保守に困っている」という方や、「翻訳を補助するツール、フレームワークの開発に興味がある」方も、ぜひこのプロジェクトへ参加ください。

また、DocFest などのイベント開催やオープンソースカンファレンスなどへの参加も行っています。

web サイト

<http://openlab.ring.gr.jp/doc-ja/>

メーリングリストのアーカイブ

<http://mail.ring.gr.jp/doc-ja/>

twitter ハッシュタグ

#docja